

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	看護基礎教育におけるシャドーイングに関する文献検討
別タイトル	Literature review on shadowing in basic nursing education
作成者（著者）	松浦, 麻子
公開者	FD委員会 健康科学ジャーナル編集会(東邦大学健康科学部)
発行日	2022.03.31
ISSN	24343838
掲載情報	東邦大学健康科学ジャーナル. 5. p.23 32.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	報告
著者版フラグ	publisher
JaLDOI	info:doi/10.14994/tohohsj.5.23
メタデータのURL	https://mylibrary.toho-u.ac.jp/webopac/TD42088002

看護基礎教育におけるシャドーイングに関する文献検討

松浦 麻子

本研究では、看護系教育機関において多く用いられている教授方法の一つであるシャドーイングに着目し、シャドーイングに関する研究の現状を明らかにし、シャドーイングの課題を見出すことを目的に、文献検討を行った。医学中央雑誌Web版（Ver. 5）に掲載されている看護の原著論文を対象に、検索用語をシャドーイング、シャドウイングと設定して文献を収集、19件の原著論文を分析対象として、記載内容を質的帰納的に分類し、研究の傾向を把握すると共にその類似性から課題を抽出した。その結果、①シャドーイングに関連した研究は2013年ごろから見られ、②シャドーイングの教育効果を直接的に研究したものは、1件のみであった。また③シャドーイングを導入している授業科目の多くが統合実習であった。以上の結果から、シャドーイングは比較的新しいワードであり、ジョブシャドウとしての役割が大きいことが示唆された。シャドーイングは、教授方法の一つであるため、授業設計の中に組み込まれてしまい、シャドーイングの効果自体に着目されることが少ないのではないかと推察された。シャドーイングの教育的効果が十分に評価されていないためシャドーイングの教育効果を様々な側面から詳細に測定し、その効果を可視化していく必要がある。

キーワード シャドーイング 看護基礎教育 教育効果

I. 研究の背景

多くの看護系教育機関では、実習の教育方法として「シャドーイング」が用いられている。シャドーイングとは、米国で中・高校生が特定の職業や産業を学ぶために、企業・組織の社員に“同行する”job shadowingを取り入れた方法である。job shadowingを行うことで、学生は自身のキャリア目標を探索し、効果的にキャリアを選択できるとされている。（小山，2017）。

看護においてシャドーイングは、①どのような仕事が行われているのかを知る。②どのような様子なのかという雰囲気を知る。という主に2つの目的で行われる教育方法で、これらの目的を達成するために、実践の場で一定の行動をとることができるロールモデル、つまり実践の見本となるような人と共に行動することで、看護を知っていくための教育方略である（西田，2014）。

看護系教育機関への入学者は、志望動機が明確で目的意識が高いと言われているが（河村ら2000；小山ら，2004）、少なからず看護に興味があ

ない者や、入学するまで病院との関りがほとんどなかったという者、看護に対するイメージがほとんどない学生も存在する。（河村，2000；竹本，2008；鈴木ら，2012）。筆者は、さまざまな場面においてシャドーイングが学生にとって効果的であることは、経験則として理解してきた。しかし、実際に実習方法としてシャドーイングを用いた場合、学生の学習効果はどの程度か、また指導者はシャドーイングの効果を十分に理解した上で活用できているのかなどについて、疑問を抱いた。

そこで本研究では、シャドーイングに関連した研究を概観し、学習法としてのシャドーイングを評価する方法について検討するために、シャドーイングを用いての学習によって、どのような教育効果が見出されているのか、またどのような課題があるのかについて、文献検討を行った。

II. 研究目的

看護系教育機関での実習において、シャドーイングを用いた学習について調査した研究論文

の分析から、シャドーイングに関する研究の現状を明らかにし、シャドーイングの課題を見出すことを目的に、文献検討を行った。

Ⅲ. 用語の定義

本研究において、シャドーイングの定義を以下のように設定した。

シャドーイング（シャドウイング）：看護師が看護を実践する場面において、看護学生は目的をもって看護師と行動を共にし、看護実践の見学や看護師と看護援助の提供を共に行う。

同義語の整理：「シャドーイング」を検索用語とした場合、「シャドウイング」という表記も検出された。シャドーイングに加え、シャドウイングという表記に関しても同義語とした。

また「同行実習」、「見学実習」という言葉においても類義語と考えられたが、本研究のシャドーイングの定義である「一部の看護援助の提供を共に行う」「目的をもって同行する」という点において相違があると判断し、類義語ではないとして除外した。

Ⅳ. 研究方法

1. 研究対象

研究対象：年代は区別せず、看護系教育機関において実践されたシャドーイングに関する研究論文で、医学中央雑誌 Web 版（Ver.5）に掲載されている原著論文とする。

2. 収集方法

検索用語をシャドーイングおよびシャドウイングとし、抽出条件は、看護学生を対象にしていること、除外条件は、対象が看護師であるもの、入手が著しく困難な文献とした。また、掲載後に取り下げをした文献も除外対象とした。ただし、精読したところ対象が看護師として除外していた文献の中に、学生時代に実施したシャドーイングについて質問している1文献については、分析対象とし、対象文献に追加をした。収集期間は、2020年1月から3月である。

3. 分析方法

1) 対象文献より以下の1~1の項目を抽出した。

①掲載年、②研究対象所属機関、③研究対象となる授業項目、④シャドーイングの用語の定義の有無、⑤研究の目的

2) 対象文献を精読し、内容に従って整理した。

①掲載年は年代別に分類、②研究対象所属期間は設置主体別に分類、③授業項目は授業科目別に整理をした。④シャドーイングの用語の定義の有無は、件数とその内容を一覧にし、記述内容を質的帰納的に分類した。⑤研究の目的は、その内容を類似性で分類を行った。

4. 倫理的配慮

文献検討に当たり、著作権を侵害しないように引用・参考文献名及び引用・参考文献個所を明確にした。また、記述内容に忠実な整理統合、著者の意図を拡大解釈しないよう配慮した。

Ⅴ. 結果

1. 文献の概要(表1-1, 1-2, 1-3, 2)

検索キーワードと抽出条件から61件の文献が抽出された。抽出された文献から除外基準に該当した42件を除外し、また掲載後に論文取り下げをした論文1件を除外した。また、除外論文中に学生時代のシャドーイングに関することを入職後に調査した論文1件を追加した19件を分析対象とした。

表2 掲載年数

		n=19
掲載年	2019年	1件
	2018年	1件
	2017年	4件
	2016年	1件
	2015年	4件
	2014年	2件
	2013年	6件

表 1-1 研究の概要一覧

タイトル	著者	雑誌名(年)	対象	デザイン	目的	結果
1 講義とシャドウイングを併用したがん終末期看護学実習における学び 緩和ケア施設と在宅を通して	森京子、古川智恵	日本医学看護学教育学会 (2017.04)	大学4年生履修者10名	質	がん終末期看護学実習において学生が得た学びの内容を明らかにする	【がんと共に生きる人と家族を支える看護師の役割】、【がん患者の思いに寄り添う関わり】、【信頼関係を基礎とした患者・看護師関係の重要性】、【垣根を越えたチームアプローチの重要性】、【在宅でその家族らしい最期を迎えるための支援】、【緩和ケアにおける医療者の姿勢】、【がん患者・家族の全人的苦痛・ニーズの捉え方】の7つのカテゴリーが得られた。これらの学びは、急性期病院と在宅緩和ケア施設の両施設において実習を行ったこと、講義とシャドウイングを併用したことにより得られた学びであると考えられた。
2 既修の知識と技術を統合する多重課題演習とシャドウイング実習から得られた3年次看護学生の学び	岡田麻里ら	日本看護科学会誌 (2017.12)	大学3年生61名	質	各論実習の臨む前に既修の知識と技術を統合するために、多重課題に対応する演習とシャドウイング実習を体験した学生の学びを明らかにする	【メンバー看護師の自立の要件】、【多重課題に対応する実践的思考】、【チームナーシングの基盤となるスタッフ間の関係構築】、【病院組織としてのチーム管理】、【他職種チームによる的確な情報交換】、【患者中心の看護の提供】、【専門領域の看護実習に向けた事故の課題の明確化】の7カテゴリーを収集した。
3 継続統合看護学実習におけるジョブシャドウイング導入による看護マネジメントに関する学生の学び	岩坂信子、尾形裕子	北海道文教大学研究紀要 (2017.03)	大学4年生履修者84名	質	継続統合看護学実習にシャドウイングを導入したことで学生がどのような看護マネジメントの学びを得たのか、シャドウイングの効果を検討すること	6つのカテゴリーに区分できた。6つのカテゴリーは、[メンバーシップ力とその発揮の方法][業務に運用するための優先とする要因][看護管理者の役割][看護チームにおけるリーダーの役割と理解][多職種連携の実践と看護師としての役割発揮][職員、患者家族と信頼関係構築のためのコミュニケーションの活用]であった。患者受け持ち看護士とのジョブシャドウイングは、優先順位や時間管理の重要性を認識でき、チームの一員としての行動姿勢を認識できた。学生は、看護管理者、リーダー看護師のシャドウイングを通して、未知なるそれぞれの役割・機能を学び取っていた。
4 精神科看護師のシャドウイングを通しての学生の学び	谷多江子ら	日本看護学教育学会誌 (2015.03)	大学3年生または4年生32名	質	本研究は、シャドウイングを通して学生が精神科看護師から学んだことを明らかにする	分析により14のカテゴリーが抽出された。どの視点においても個々の患者の状態やその場の状況等に応じて変化する個別的で状況依存的なケアを観察することができていた。また、全記録単位の約6割において、看護師のケアの意図や根拠を自分の知識や患者の反応から推測していた。
5 夜間実習の実態リアリティを伴う学び	中島艶子ら	松村総合病院医学雑誌 (2014.03)	夜間実習を体験した看護師養成所3年課程学生23名、実習指導者2名、卒業生19名を対象	量	夜間実習の実態を明らかにする	シャドウイングを取り入れた夜間実習は、総合実習における学生の具体的理解につながる
6 基礎看護学実習でのシャドウイングによる看護学生の学びの効果	堀香純ら	東京医科大学看護専門学雑誌 (2013.03)	基礎看護学実習1を終えた専門学3年課程の1年生84名	量	シャドウイングを行う効果について明らかにすること、今後の実習の方向性の検討のための基礎的資料を得ること	シャドウイングは初学者である看護学生にとって看護師の特徴、特に看護活動のイメージ化を図るという効果が大いことが明らかとなった。アンケートには、シャドウイングによって看護師を目指す者としての自分への影響について98%の学生が「あった」としていた。シャドウイングは初学者である看護学生にとって看護師の特徴、特に看護活動のイメージ化を図るという効果が大きいことが明らかとなった。また、さらに効果的にシャドウイングを進めるうえでの必要条件、重要項目として、学修目標の更なる明確化、ガイダンス内容の精選と実施方法、実習記録内容の精選、主体的に学ぶための学生自身への意識付け、ロールモデルや実施内容についての臨床との調整、実施後教員や指導係との振り返りの場を設ける必要性についても明らかとなった。

表 1-2 研究の概要一覧つき

タイトル	著者	雑誌名(年)	対象	デザイン	目的	結果
7 統合実習における主要課題の理解度と実習方法との関連	大橋 洋子ら	日本看護学会論文集:看護管理 (2013.04)	看護師養成施設(2年、3年課程)で統合実習を終了した学生	量	1. 統合実習の主要課題に関する学生の理解度を知る 2. 主要課題の理解度と実習方法の関連を明らかにする	主要課題のうち「多重課題での優先順位判断の根拠」「看護チーム内の連携」「他職種との連携」「夜間の療養環境」「看護実践に必要な組織的な管理、運営の実際」「医療事故防止の実際」については70%以上の学生が理解したと回答した。主要課題の理解度を高めた実習方法は、受け持ち患者数が3人以上、看護管理実習でのシャドウイング、夜間実習を消灯後まで行うであった。
8 学生の経験に基づく夜間実習の成果と課題の検討	宮城 真樹ら	東邦看護学会誌 (2013.03)	大学4年生4名	質	夜間実習を履修した学生の経験内容を明らかにすることにより、実習の成果および課題を検討	8カテゴリー【目的、目標の受け止め】【実習の設定に対する評価】【シャドウイングという実習方法への評価】【担当看護師との関係性】【振り返りのための時間と手段】【実習後に残る不全感】【看護師の実践に対する洞察的な理解】【夜勤業務に対する感覚的な理解】が生成された。夜間実習の成果として、学生は的確に業務を遂行するための条件を認識し自らの課題を見出したこと、昼夜の患者の状態の違いに関心を持てたこと、チームで関わる大切さを学べたことが明らかとなった。
9 A大学看護学生の統合実習における看護管理に関する学び	竹崎 和子, 高尾 茂子	インターナショナルNursing Care Research (2019.04)	統合実習「看護管理」を履修した4年生52名のうち、同意が得られた50名	質	大学の統合実習においてシャドウイングを中心に構成した看護管理実習での学生の学びを明らかにし、今後の課題を検討	『看護の質向上に向けた看護管理』、『安全管理の重要性についての理解』、『対人的サービスに必要な人材育成』、『チームの一員としての責任と役割遂行』、『多職種との情報交換と協働』の5つのカテゴリーが形成された。シャドウイングを中心とした統合実習における看護管理の実習目的にそった学びが得られていることが明らかになった。
10 基礎看護学実習における看護師のシャドウイングを通しての学生の学び	小林 裕子ら	国立病院看護研究学会誌 (2018.09)	看護専門学校1年生90名	量	1年次後期に実施している基礎看護学実習①②の看護師のシャドウイングにおける学生の学びを明らかにする	頻出した語は『患者』『確認』『行なう』の順に出現していた。共起ネットワーク分析では、＜疾患の随伴症状の確認と判断した行動＞＜バイタルサインの測定方法＞＜皮膚の状態に留意＞＜年齢や治療に伴う身体変化＞＜患者の状態に応じた排泄援助＞＜コミュニケーションによる情報収集や援助＞＜自立に向けたADL拡大の援助＞の7つの学びの塊が抽出された。基礎看護学実習の看護師のシャドウイングにおいて、学生は、看護師が患者の状態や変化を捉えながら関わっていることを学んでいた。
11 看護大学生が成人看護学実習におけるシャドウイングから得た学び	平良 由香子ら	医療職の能力開発 (2017.01)	成人看護学実習を行った学生89名 日々の実習記録 大学3年生	質	シャドウイングを通して学生がどのような学びを得ているのかを質的帰納的に探索し、今後の成人看護学実習における質の向上を図るための示唆を得ることを目的とした	【様々な疾患・病状の患者に必要な看護があることを理解】、【安全確保・個人情報保護の大切さとその実際を理解】、【的確な知識、手技、心配りの重要性を再認識】、【自己の実習に活用したい学び】、【患者の治療や回復過程の体験を理解】は、シャドウイングの導入目的を果たす学びであり、シャドウイングから【看護師の技のすごさを肌で実感】【ケアの効率性と優先順位を考慮する必要性を実感】、【アセスメントの複雑さを実感】、【チーム医療とは何かを肌で実感】、という看護理解を深化させる学びを得ていた。
12 周手術期・回復期看護実習における達成感のプロセス	石渡 智恵美ら	日本看護学会論文集:急性期看護 (2016.05)	短期大学看護学科3年生85名の中で、周手術期・回復期前後実習後に研究の同意が得られた学生	質	成人看護学の周手術期・回復期前後実習における看護学生が達成感に至った感情・思考・行動のプロセスを明らかにし、今後の実習指導と教育支援の示唆を得ること	1) 学生の学習への動機付けには、教員の意図的な関りの重要性が明らかとなった。 2) 実習初日のシャドウイング実習での学びは、受け持ち患者の周手術期・回復期実習への一連の流れの理解と看護実践に役立っていた。 3) 学生の達成感には、対象からの承認・グループメンバー・指導者・師長・教員の周囲の支援によるものが深く関与することが明らかとなった。

表 1-3 研究の概要一覧 つづき 2

タイトル	著者	雑誌名(年)	対象	デザイン	目的	結果
13 小児看護学実習における看護技術経験の実態	枝川千鶴子ら	愛媛県立医療技術大学紀要 (2015.12)	小児看護学実習を行った3年生44人と4年生14人	量	小児看護学実習における技術経験と技術到達レベルの到達状況を明らかにし、技術教育に関する基礎資料とする	【環境調整技術】、【安全管理の技術】、【安楽確保の技術】の3項目とバイタルサインの測定や状態のアセスメント、手洗いの実施、などの細目は経験率・到達レベルの到達率が高かった。【排泄援助技術】、【呼吸・循環を整える技術】、【創傷管理技術】、【救急救命処置技術】の4項目は経験率70%を超える細目がなかった。
14 新人看護職が認識している統合実習の効果	平野美樹子, 高橋江美子	長岡赤十字病院医学雑誌 (2015.09)	3年課程看護教育施設でシャドーイング実習が含まれた統合実習を経験し、就職した卒業後1～2年生の看護師82名	量	統合実習を経験した看護師を対象とした入職時における統合実習の有用性に関する調査から統合実習の効果を明らかにする	統合実習各項目の評価の平均値は、日勤帯、前夜帯シャドーイング実習共に3.1であった。役立った理由は、日勤帯の実習では、「複数対象への安全な援助方法」「時間管理の方法」「優先順位の決定」、前夜帯の実習では「複数対象への安全な援助方法」「時間管理の方法」「継続看護の方法」の順であった。
15 シャドーイングと看護実践を反復する統合実習での看護学生の学び	岩月すみ江, 所澤好美	札幌保健医療大学紀要 (2014.03)	3年次統合実習を終了した看護学生48名のレポート	質	シャドーイングと看護実践を反復するA校の統合実習における学生の学びを明らかにし、今後の統合実習のための	シャドーイングからは【観察】【チームナーシング】【判断】【看護の態度】【時間】などが高い頻度で抽出され、看護師のロールモデルから実践的に学んでいた。複数受け持ち・看護実践では【看護実践】の抽出頻度が高くカテゴリーの関連は観察や判断、時間などが看護実践に複合的に関係していた。
16 看護実践統合実習でのシャドーイングによる学生の学びと効果	高下智香子, 加藤かすみ	中国四国地区国立病院機構・国立療養所看護研究学会誌 (2015.01)	看護専門専門学校(3年課程)で看護実践統合実習をした3年生10名	質	シャドーイングによる看護実践統合実習での、記述では明らかにならなかった学生の学びをインタビュー調査により明らかにする	学生の学びとして210のコード、20のサブカテゴリー、「看護の明確化」「連携・コミュニケーション」「患者への対応」「看護師像のイメージ化」「看護師に対する期待と不安の自覚」の5つのカテゴリーが抽出された。臨床現場につく前の学生は「看護師像のイメージ化」「看護師に対する期待と不安の自覚」の様々な気づきがあることが分かった
17 臨床実践能力の修得につながる統合実習の総合評価	小野晴子ら	岡山県看護教育研究会誌 (2013.08)	短期大学3年生62名	質	統合実習の学生の学びを分析し総合評価とすることで臨床実践能力の修得につながる実習であったかを明らかにし、教育上の課題ならびに今後の教授方法の工夫に役立てる	1.統合実習における学びでは、判断と臨機応変、時間管理の工夫、アセスメントの困難さ、医療安全と危険予知について学んでいた。学びの過程において気づく力や考える力の育成にもなっていた。2.チーム医療や他職種との連携について学び、看護をマネジメントする基礎的能力の育成に繋がっていることがわかった。3.管理者の役割・機能の理解、臨床実践の貴重な体験、管理者の倫理に関する理解については管理者をロールモデルとしたシャドーイングによる効果が得られ、幅広い学びができていた。4.教育と臨地の連携不足や実習内容の格差など実習への工夫が十分でなく、実習への取組みに影響を及ぼしたことが今後の課題が明らかになった。以上ことから、カリキュラム改正初年度の看護管理実習「統合実習」における学生の学びは、臨床実践能力の修得につながっていることがわかった。
18 周手術期実習におけるシャドーイングの実態調査	長田 艶子	日本看護教育学会誌 (2013.07)	A大学で周手術期実習を履修、2012年5月に在籍していた学生70名	量	周手術期実習におけるシャドーイングの実施状況を明らかにする。また、シャドーイングの効果・必要性に対する学生の反応を知り、今後の実習方法を検討する	シャドーイングを実施した学生は36名(62%)で、実施時期は「受け持ち患者の手術前」が24名(67%)、「受け持ち患者の手術後」が17名(47%)であった。受け持ち患者の手術前にシャドーイングを実施した学生に対し、「シャドーイングがどのようなことに役立ったか」を複数回答で尋ねたところ、「看護実践の準備」を挙げた者が22名(92%)、「術後経過に合わせた看護計画の立案」が18名(75%)、「患者の状況に合わせた看護実践」が17名(71%)、「状況に合わせた看護計画の追加・修正」が16名(67%)、「実施した看護の評価」が15名(63%)であった。Sを実施していない学生を含む全員に対して「シャドーイングの必要性」を尋ねたところ、「必要」と答えた者が46名(79%)、「必要でない」1名(2%)、「わからない」11名(19%)であった。
19 シャドーイングによる統合実習での学生の学びの認識と指導者の認識の実態	高下智香子, 常石光美	中国四国地区国立病院機構・国立療養所看護研究学会誌 (2013.01)	看護学校の学生3年生74名	量	シャドーイングによる統合実習での学生の認識と指導者の認識を明らかにする	学生の学びは、「優先順位の判断」「限られた時間の中で効果的な時間の使い方」「予定された時間の使い方」「情報収集の仕方」「看護チームの連携」「感染予防」「患者への配慮」「見習うべき看護師としての姿勢」などであった。一方、統合実習についての指導者の認識は、「学生の情報不足」「学生に積極性がない」「学生の学びが確認できない」「指導する余裕がない」「シャドーイングへの負担感」「意義のある実習」などであった。シャドーイングにより、学生は実務に即した行動がイメージ化でき学びの多い実習であったことが分かった。

3. 研究対象所属機関(表3)

研究対象の所属先には、看護系大学が13件、看護系短期大学2件、看護専門学校6件、専門学校卒業後が1件であった。研究対象の学年が複数ある文献があった。

表3 研究対象所属機関

看護系大学	1年	0件
	2年	0件
	3年	7件
	4年	6件
看護系短期大学	3年	2件
看護専門学校	1年	2件
	2年	0件
	3年	4件
専門学校卒業	1～2年	1件

重複あり

4. 授業項目(表4)

シャドーイングを用いた授業項目は、統合実習11件、成人看護学実習3件、小児看護学実習1件、精神看護学実習1件、基礎看護学実習2件であった。

表4 授業項目

授業項目	n=19
統合実習	8件
成人看護学領域	1件
精神看護学	1件
看護管理	1件
成人看護学実習	周手術期・回復期看護 1件
小児看護学実習	2件
精神看護学実習	1件
基礎看護学実習	2件

5. シャドーイングの用語の定義内容(表5)

文献19件中、シャドーイングの定義をしているものは、7件であった。7件すべての定義の内容を表5に示す。

シャドーイングを見学または観察であるとするもの、見学または観察と合わせて看護師と共に看護援助の一部を実施するという二つに分かれていた。

6. 研究目的の内容(表6)

研究目的についてその内容を類似性で区分し、分類、整理を行った。その結果、実習の評価に関するものが8件と最も多く、次いで実習における学生の学びが7件であった。

表6 研究目的の内容

実習における学生の学び	7件
看護師から学んだこと	1件
学生と指導者の認識	1件
学生の実習に関する理解度	2件
感情・思考・行動のプロセス	1件
技術経験と技術到達レベルの到達状況	1件
シャドウイングの効果	2件
シャドーイングの実施状況	5件
実習の評価	8件

VI. 考察

今回の文献検討の結果からシャドーイングの研究に関する研究全体を概観して考察する。

1. 文献の概観

「シャドーイング(シャドウイング)」を検索語として、医学中央雑誌のWeb検索を行ったところ、2013年以前の文献は検索されなかった。小山(2017)らは、2011年以降、

表5 シャドーイングの用語の定義内容

シャドーイングの定義
ロールモデルである看護師に影のようについてまわり、看護実践を観察する実習方法
1人の看護師に影のようについて、一定時間その看護師の行う看護と患者の反応など起こることを観察することをいう
臨床の看護師に「影のようについて」行動を共にし、看護の実践を間近で見学すること
ロールモデルとなる看護師に同行し、看護実践を経験すること
学生が看護師とともに行動し、看護師が実践する看護の実践を見学することや看護師とともに患者に一部の看護援助を行うこと
その領域の仕事に関する知見を得るために、その部署のスタッフもしくは関心のある役割の仕事について、一緒に動いたり観察したりすること
シャドーイングとは、看護師と共に患者の観察や一部援助を実施すること

キャリア教育が本格化されるに伴い、シャドーイングが用語として用いられるようになったと述べている。シャドーイングによる学習効果に関する研究報告は少なかった。これは、シャドーイングが教授方法の一つであり、それ自体に着目することで効果を測定することは難しいと判断しているのではないかと推察される。

シャドーイングを実施している授業項目でも多かったのは、統合実習であった。統合実習は、卒業を目前に控えた高学年の学生が対象であるため、シャドーイングをする中で看護師の仕事役割を学ぶ機会となっている。(鈴木ら, 2018)。このことから、シャドーイングによる学習目的において、就職後の状況を体験する「ジョブシャドウ」を目的としてこの方法を採用している可能性があることが推察された。

2. シャドーイングの課題

研究目的の記載では、シャドーイングの効果を測ることを目的としているものは2件であった。また、実際にシャドーイングの効果自体を直接的に研究したものは、1件であった。しかし、この1件は、研究者による自作のアンケート調査であり、限られた対象に対するシャドーイングの効果であり、一般化するには、対象が限定されていた。全体を網羅するものではなかった。これらの結果よりシャドーイングは、一般的な教授方法の一つとして、授業設計の中に組み込まれてしまい、シャドーイングの効果自体に着目されることが少ないのではないかと考えられた。また、シャドーイングの方法自体が慣例になってしまい、その方法の効果を明らかにしないまま導入していることも考えられた。堀(2013)は「ガイダンスの時点からシャドーイングの意義や方法について学生自身がイメージできるように説明していく必要がある」と述べている。このように、目的が明確でない教授方法は、学生の学習目標が到達しないことが懸念されるため、今後は、学生に対し実習前にシャドーイングの目的・方法をしっかりと明

示し、学習目標が到達できるように教授する必要があることが示唆された。

今回の対象文献に関する研究目的の分類からもシャドーイングを用いて実習の様々な局面での学びについて評価を検討していることが明らかとなった。これらの結果より、シャドーイングには多岐にわたる効果があると認識されていることが推察される。しかし、臨床実習において、シャドーイングを取り入れる場合は、シャドーイングを行うことでどのような学習効果を期待しているのかを明らかにおくことが重要だと考える。

柘植(2021)は、臨地実習指導者研修において、看護師もシャドーイングを体験後であっても不安を持っていることを報告している。このことから、学生だけでなく臨床看護師側にもシャドーイングの意義や方法がイメージできるように説明する必要があると考える。教授方法を提示する教員は、実習を展開する臨床指導者に、実習の目的や実習方法について丁寧な説明を行い、お互いに共通認識を持ち、同じゴールが描けるようにしていく必要があると考える。また、シャドーイングは学生だけでなく、臨床指導者側にも看護師としての成長を促す機会になることも推察される。学生によるシャドーイングを通して、看護師にどのような影響があるのか明らかにされた研究は確認できなかったため、今後は、シャドーイングの教育効果を様々な側面から詳細に測定することでさらに効果的な教育方法の選択の一助となると考える。

現在、行われているシャドーイングの課題として、学生が目的を持たずに看護師と行動をともにすることで、学生が何を観察しているのかわからないなどが挙げられている。小林ら(2018)は、学生にシャドーイングをさせるだけでなく、学生にとって学びにつながるような意味付けが必要であると述べている。しかし、看護師がどのような意図をもって対象者に援助を行い、声掛けを行ったのかなど、看護実践の後にその意図を説明・解説をしなければいけない場面が生じ、業務と共に行うことは看護師側

にとって負担が生じることが考えられる。小林ら (2018) は、日々の多忙な業務と並行して学生指導中心で業務を行うことは困難と述べている。このことから、これらの課題を念頭においた教育方法であることを教員は認識したうえで、教員と実習指導者で学修目標や学習効果の内容について共通認識を持つ必要がある。

シャドーイングを通して、学生にとって看護実践と一緒に参加し、看護師と対話をする中で、将来の多様な看護師像がイメージ出来、看護観の形成に影響を及ぼすことが予測できる (堀, 2013)。小林ら (2018) もシャドーイングは看護実践のために様々な能力が必要であることを学ぶ機会となることを述べている。シャドーイングという方法は多くの可能性を持ち、導入により様々な学習効果が期待できると考える。

谷らは (2015)、臨床看護師としては、シャドーイングをされることが第三者の目を意識するきっかけとして働いていると述べている。このことから看護師自身が自分の看護を振り返る機会になることも示唆された。看護師が、忙しい業務の中、自分自身の看護を振り返ることは難しい。そのような中で、学生の実習ではあっても自分自身の看護を振り返ることが今後のより良い看護の形成につながるきっかけとなることが示唆された。この機会を臨床側も好機と捉え、自施設の研修と連動させリフレクションすることで看護師自身の成長のポートフォリオになる可能性があると考えた。

これらのことを踏まえ、実習におけるシャドーイングの課題は、その方法の効果が評価されていないことであり、教育的効果を臨床、教育、学生の視点からさらに可視化できるよう評価を充実させていく必要があると考える。さらに、シャドーイングされる側に対しても、その効果が可視化されることで自分自身への成長につながることを積極的に伝えていく必要があると考える。

Ⅶ. 結論

看護基礎教育におけるシャドーイングに関する研究の現状を把握するため、文献検討を行った。シャドーイングに関する研究は、2013年以降より見られた。シャドーイングの教育効果を直接的に研究したものは、1件のみであった。シャドーイングの方法に対する効果の評価が明らかではないため、その効果を可視化していく必要があると考える。

Ⅷ. 利益相反

本研究における利益相反は存在しない。(本研究は、東邦大学健康科学部特別研究助成を受け、2020年に実施した。

引用文献

- 枝川千鶴子, 藤原紀世子, 豊田ゆかり.
(2015):小児看護学実習における看護技術経験の実態. 愛媛県立医療技術大学紀要, 12巻, 1号, 51-57.
- 平野美樹子, 高橋江美子. (2015):新人看護職が認識している統合実習の効果 看護師へのシャドーイング実習に焦点をあてて. 長岡赤十字病院医学雑誌, 28巻1号, 39-43.
- 堀香純, 柴田恵美, 田山友子. (2013):基礎看護学実習Iでのシャドウイングによる看護学生の学びの効果. 東京医科大学看護専門学校紀要Vol. 23, No. 1号, 31-36
- 石渡智恵美, 菱刈 美和子, 榎田紗季子, 中村久美子. (2016):周手術期・回復期看護実習における達成感のプロセス. 日本看護学会論文集:急性期看護, 46号, 301-304.
- 岩坂信子, 尾形裕子. (2017):継続統合看護学実習におけるジョブシャドウイング導入による看護マネジメントに関する学生の学び. 北海道文教大学研究紀要. 41号, 97-107.
- 岩月すみ江, 所澤好美(2014):シャドーイングと看護実践を反復する統合実習での看護学生の学び. 札幌保健医療大学紀要, 1巻, 43-54.
- 河村彰美, 中川雅子, 藤田淳子, 種池礼子. (2000):看護学生における看護婦のアイ

- デンティティ形成と志望理由・学習進度との関係. 京都府立医科大学医療技術短期大学部紀要, 10, 91-99.
- 小林裕子, 藤井光輝, 片山善友, 児玉真由美. (2019): 基礎看護学実習における看護師のシャドーイングを通しての学生の学び. 国立病院看護研究学会誌, 14巻1号, 35-45.
- 小山健 (2017): ジョブシャドウイングのキャリア教育効果の検討. コミュニケーション科学 = the Journal of Communication Studies, 46, 3-26.
- 宮城真樹, 島名美樹, 小田心火, 山城久典 (2013): 学生の経験に基づく夜間実習の成果と課題の検討. 東邦看護学会誌, 10号. 15-22.
- 森京子, 古川智恵. (2017): 講義とシャドウイングを併用したがん終末期看護学実習における学び 急性期病院と在宅緩和ケア施設での実習を通して. 日本医学看護学教育学会, Vol. 26 No. 1, 27-35.
- 長田艶子. (2013): 周手術期実習におけるシャドーイングの実態調査 学生アンケートによる検討. 日本看護学教育学会誌, 23巻1号, 53-61.
- 中島艶子, 内田日登美ら (2014): 夜間実習の実態 リアリティを伴う学び. 松村総合病院医学雑誌. 28巻1号, 50-52.
- 大橋洋子, 渡辺しき子, 平野美樹子, 加藤由美子, 戸田晴子, 菅せつ子, …, 福澤恭子. (2013): 統合実習における主要課題の理解度と実習方法との関連. 日本看護学会論文集: 看護管理, 43号, 51-54.
- 西田朋子. (2014): シャドウイング「私はここにいてもいいの?」. 看護管理, Vol. 24, No5, 486-489.
- 岡田麻里, 今井多樹子, 井上誠, 近藤美也子, 土路生明美, 船橋眞子, … 松森直美. (2017): 既修の知識と技術を統合する多重課題演習とシャドウイング実習から得られた3年次看護学生の学び. 日本看護科学会誌, 37巻, 446-455.
- 小野晴子, 塩見和子, 掛屋純子, 磯本堯子, 野浩子, 土井英. (2013): 臨床実践能力の修得につながる統合実習の総合評価. 岡山県看護教育研究会誌, 37巻1号, 16-24.
- 鈴木美代子, 井上都之, 高橋有里, 他 (2012): 看護学生の看護のイメージと個人要因との関連について. 岩手県立大学看護学部紀要, 14, 33-48.
- 平良由香利, 梶山直子ら (2017): 看護大学生が成人看護学実習におけるシャドーイングから得た学び. 医療職の能力開発, 4巻1号, 1-9.
- 竹本由香里. (2008): 看護学生の看護系大学への進学志望動機の検討. 宮城大学看護学部紀要, 11 (1), 13-20.
- 高下智香子, 加藤かすみ (2015): 看護実践統合実習でのシャドーイングによる学生の学びと効果 インタビュー調査を行って. 中国四国地区国立病院機構・国立療養所看護研究学会誌 (1880-6619), 10巻, 9-12.
- 高下智香子, 常石 光美 (2013): シャドーイングによる統合実習での学生の学びの認識と指導者の指導の認識の実態. 中国四国地区国立病院機構・国立療養所看護研究学会誌 (1880-6619), 8巻, 292-295.
- 谷多江子, 宮林郁子, 安藤満代, 八谷美絵, 小森あき奈. (2015): 精神科看護師のシャドウイングを通しての学生の学び. 日本看護学教育学会誌, 24巻3号, 75-88.
- 竹崎和子, 高尾茂子 (2019): A 大学看護学生の統合実習における看護管理に関する学び. インターナショナル Nursing Care Research, 18巻1号, 77-85.
- 柘植みずほ (2021): 一般急性期病院の病棟看護師に対する臨地実習指導研修における「シャドーイング」導入の成果. 第51回日本看護学会論文集 看護管理・看護教育, 267-270.

Literature review on shadowing in basic nursing education

Asako Matsuura

Toho University

Focusing on shadowing as one of the teaching methods widely used in nursing educational institutions, this study conducted a literature review to clarify the current state of research on shadowing and identify issues related to shadowing. We collected literature on original articles on nursing published in the Web version of the Central Journal of Medicine (Ver. 5), setting the search terms as shadowing and shadowing. 19 original articles were selected for analysis, and their descriptions were classified qualitatively and functionally to identify research trends, and issues were extracted based on their similarities. The results showed that (1) studies related to shadowing were found around 2013, and (2) only one study directly studied the educational effects of shadowing. In addition, (3) most of the class courses in which shadowing was introduced were in integrated practice. These results suggest that shadowing is a relatively new word and that it plays a significant role as a job shadow. Since shadowing is one of the teaching methods, it was inferred that shadowing is so integrated into the class design that the effects of shadowing itself are rarely focused on. Since the educational effects of shadowing have not been fully evaluated, it is necessary to measure the educational effects of shadowing in detail from various aspects and to visualize these effects.

Key words shadowing, basic nursing education, education effects